

研究機関名：仙台医療センター

受付番号：
研究課題名 A 病院における出生後早期に保育器収容となった新生児の体温管理の現状調査
研究期間 西暦 2017 年 7 月(倫理委員会承認後) ～ 2017 年 10 月
研究責任者 高松未季、本間寛子、白幡育子、菊池美穂、佐藤秀子
研究の意義、目的 保育器収容児を対象とした出生後早期の体温管理に関する先行研究では、体温管理マニュアルの見直しや新たなケアの導入による効果を検討する介入研究が多く、体温管理の実態を調査した研究は少ない。また、対象の多くは超低出生体重児・極低出生体重児等に限定されている。施設間においても体温管理に影響を及ぼす条件は異なり、A 病院でも先行研究と同じケアマニュアルを用いることは困難である。 中沢らは、「入院後高体温を防ぐための体温管理マニュアル見直しの実践結果」において、入院 8 時間以内を対象としている。しかし A 病院では入院 8 時間では体温安定しているとは不明である。また、A 病院における早産児以外の保育器収容児の多くは生後 24 時間以内でコット移床することができている。そのため、本研究における出生後早期は生後 24 時間とする。本研究では、A 病院における出生後早期の体温管理の現状を明らかにする。その結果、課題を見出し A 病院での適切なケア検討の資料とする。
対象 <input type="checkbox"/> 病理組織(対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 生検組織(対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 血液材料(対象臓器名 ) <input checked="" type="checkbox"/> その他(平成 27 年 10 月～平成 29 年 3 月に出生直後より保育器収容となった入院児の基礎情報及び体温変化に影響する項目)
研究方法 量的研究・後ろ向き研究 1. 過去の電子カルテよりデータ収集を行う。 2. 各対象患児から、以下のデータを収集、グラフ化し分析する ①対象の基本情報 (対象背景)：在胎週数・出生体重・アプガールスコア ②入室までの情報：入室までの所要時間時間と移動手段 (搬送用クベース・抱っこ等) ③初期ケアの状況：保育器収容時の設定温度・設定湿度・室温・湿度・入院時体温 入室から初期ケア終了までの所要時間 ④生後 24 時間の人工呼吸器装着の有無、経過 ⑤生後 24 時間までの 1 時間毎の設定器内酸素と実測器内酸素の変化 ⑥生後 24 時間までの体温変化 各時間とも測定時間が 30 分以降の体温は、次の時間の体温と考える・ 1 時間うちに複数回体温測定している場合は、平均値とする。 ⑦生後 24 時間までの設定器内温変化と実測器内温の変化 ⑧生後 24 時間までの設定器内湿度変化と実測器内湿度の変化 ⑨生後 24 時間までの体温測定時の State ⑩生後 24 時間までの看護師の器内温調節方法 (回数、調節温度)
問い合わせ及び苦情等の窓口 仙台医療センター 母子センター 高松未季 (代表研究者) 〒 983-8520 仙台市宮城野区宮城野 2-8-8 電話 022-297-6320 ※研究に利用されたくない場合には、上記窓口までご連絡願います。